

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月13日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520468

研究課題名（和文）

ロシア資料の文献方言史学的研究

研究課題名（英文）the study of the history of dialect by Russian documents written in Cyrillic

研究代表者

江口 泰生 (EGUCHI Yasuo)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：60203626

研究成果の概要（和文）：

本研究はロシア資料によって、日本語方言の研究をした。

具体的には以下のとおりである。

- (1) レザノフ資料の日本語について、その特徴を明らかにした。
- (2) マスルとマスについて、18世紀石巻方言における両者の相違について明らかにした。
- (3) タタリノフ「レキシコン」のデータを作成した。
- (4) タタリノフ「レキシコン」についてのペトロワ論文の翻訳をした。
- (5) レザノフ資料の日本語について、その敬語を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research issue is the study of the history of the dialect by Russian documents written in Cyrillic.

- (1) I have analyzed the characteristics of the Japanese for documents Rezanov wrote.
- (2) I have analyzed the Ishinomaki dialect in 18th century -まする (Masuru) and ます (mass)
- (3) I have entered the data that Tatarinov wrote the dictionary "lexocon."
- (4) I have to translate a paper that Petrova wrote about the Tatarinov "lexicon".
- (5) I have analyzed the honorific system of Ishinomaki dialect by Russian documents that Rezanov wrote in Cyrillic.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 2011年度 | 400,000   | 120,000 | 520,000   |
| 2012年度 | 500,000   | 150,000 | 650,000   |
| 総計     | 1,700,000 | 510,000 | 2,210,000 |

研究分野：国語学

科研費の分科・細目：人文学、言語学、日本語学

キーワード：ロシア資料、レザノフ、タタリノフ、石巻方言、青森方言

## 1. 研究開始当初の背景

江戸時代にロシアに漂流した日本人がいた。彼らはロシア人への情報提供者となってロシ

ア語を青森方言や仙台石巻方言で訳したり、彼らの話す日本語がロシア文字で写されたりした。これをロシア資料とよぶ。このロシア

資料は音素文字で表記されていて、かつ口語的な方言で書かれているので、江戸時代の方言の生の姿が分かる。それにも関わらず、さほど研究がなされてこなかった

本研究は、第一に江戸時代、漂流民が遺したロシア資料を中心に、日本語の方言や音韻を明らかにすることを目的とする。

この研究をおこなう背景は、漂流民の残した資料、ゴンザ資料、レザノフ資料、タタリノフ資料、漂流記関係資料などがあるが、江口がかつて科研費などを利用して整備したゴンザ資料を除くと、ほとんど研究が進んでいない状態にある。その要因として考えるのは、

- (1) 資料が読みにくいこと
- (2) 一般に資料の内容がわからないこと
- (3) 資料が使えるものかどうか不明であること

などである。

こういう状況を打破したいと考える。

## 2. 研究の目的

そこで本研究課題の目的はそれらの資料を入手し、どういう特徴のある資料なのかを明らかにする。

具体的には次のような目的がある。

レザノフ資料がどのような方言を反映したものか。レザノフ資料の方言特徴。

タタリノフ資料の研究史の解明。タタリノフ資料のデータベース化。本文の翻刻、索引作成、語彙の検討、言語的特徴の解明。

またレザノフ資料やタタリノフ資料の背景をなす仙台石巻や青森県下北などで資料の収集を行い、資料を一般に使いやすい形で公表する。

## 3. 研究の方法

まず資料について、レザノフ資料については、宮城県立図書館からマイクロフィルム、

これと関係して『環海異聞』の写本をいくつか入手した。

タタリノフ資料については、ペトロワの著書があるが、本文やペトロワ論文をこれらをデータベース化した。ペトロワ論文はロシア語であり、また日本では容易に入手し難い本なのでこれを一般に読めるようなかたちで公表したいと考える。これによって、格段に研究がしやすくなるはずである。

また以上のレザノフ資料やタタリノフ資料がどのような言語的特徴を有しているかを学会や論文などで公表する必要もある。

タタリノフ資料の背景をなす青森県や青森県下北市にも現地調査を行い、東奥日報のコピーや現地で明らかにされていることなどを入手した。そのなかにはこれまで埋もれていたような研究史上のことがらも判明したので、今後、公表していきたい。

## 4. 研究成果

レザノフ資料について、語中尾の有声化やマスとマスの相違、敬語体系などについて明らかにして公表した。その結果は学会誌(国語国文、語文研究)に論文が採用されたり、学会誌『日本語の研究』の展望号に論文の紹介がなされるなどのインパクトを与えた。

過去に残された方言資料の研究は、それに取り組む人間も限られており、たくさんの研究人口があるわけではない。しかし、佐井村ではこつこつと研究をされている人もおられるし、読みやすいように訳して公表すれば、ゴンザ資料のように、それを研究対象にする若者も出現してきた。

タタリノフ資料は地域の誇りでもあるようで、地元ではロシアへの漂流民を題材とした劇が小学校で開催されているそうである。

レザノフ資料が日本語史、方言研究にどのように寄与しうるか、基礎的な研究になると思われるし、ゴンザ資料との相違も明白にな

ったと思う。

またタタリーノフ「レキシコン」についての唯一の研究といっても過言ではないと思われるペトロワの論文を邦訳し、近時、公表予定である。タタリーノフ資料研究の基盤になるものと考えられる。

タタリーノフ資料についても、翻刻データが完成したので、近いうちに公表し、研究の礎としたい。

日本とロシアの交渉において、これらの資料が果たす役割も大きい。また語学的には、東北方言のカタ行子音有声化は音声現象ではなく、ハ行転呼や連濁と同じような形態音韻論的な働きが大きいことも述べた。かつて日本語の語中尾において、有声-無声の対立が非関与的だったのではないか、と考える立場があるが、現代までに役割に大きな変化があったことになる。

また学会発表もおこなった。日本語学会中国四国支部大会、筑紫日本語研究会、岡山大学言語国語国文学会などである。筑紫日本語研究会には東北地方の出身の研究者やロシア資料研究者もおられ、レザノフ資料の発表については大変な興味を示された。論文の抜き刷りを謹呈するなどして差し上げた。

招待講演（山口県国語教育）などにもその成果の一部を発表し、一般の興味をひいたはずである。

「ロシア資料」という名称はかつて辞典類（「国語学大辞典」など）に見出し項目として採用されていなかったのみならず、そもそもそういう資料を対象とする記事すらなかったのである。

しかるに、ゴンザ資料の整備や公表などを通して、研究者に認知されるようになり、昨今では辞典の見出し項目として採用されるようになってきた。こうしたこともインパクトとしてあげることができようか。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

①2012.12 単独

「レザノフ「会話」からみた18世紀末石巻方言のマスとマスル」

『国語国文』81-12、査読有

② 2012.6 単独

「レザノフ「会話」からみた18世紀末石巻方言の敬語体系」

『筑紫日本語研究 2011』

2011 p49～p59、査読なし

③2010.3.30 単独

「推敲・造型・感覚・言葉—近現代小説の言語—」

山口県国語部会

『国語』69 p2～16、招待講演の文章化、査読なし

④2010.6.1 単独

「レザノフ資料の日本語」

『語文研究』108.109 p1～16、査読有

⑤2010.3 単独

「佐賀方言戯作の終助詞バイとバン」

『岡大國文論稿』38 p54～58、査読有

〔学会発表〕(計4件)

①2010.11 単独

日本語学会中国四国支部大会

(於 山口大学人文学部講義棟2階大講義室

題目「レザノフ「会話」の敬語」

②2011.8 単独

筑紫日本語研究会

「レザノフ「会話」からみた18世紀末石巻方言の敬語体系」

(九重共同研修所 8.8~8.10))

③2012.7 単独

岡山大学言語国語国文学会

「一八世紀末東日本方言の敬語について」

(岡山大学総合研究棟2F 共同研究室)

[[招待講演]

①2010.3.30 単独

山口県国語部会

「推敲・造型・感覚・言葉—近現代小説の言語—」

招待講演 (山口県セミナーパーク)

[図書] (計0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江口 泰生 (EGUCHI Yasuo)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号: 60203626

(2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号: